



豊島 土庄港の海上タクシーで直島間で15分

## てしま 豊島事件

有害産業廃棄物の完全除去・無害化

そして再利用へ

～人類史上に残る挑戦の現場から～

2018年10月下旬、台風と台風の合間の穏やかな日、瀬戸内に浮かぶ豊島(香川県土庄町)

に、我が国最大級の産廃不法投棄現場見学へ

行ってきました。案内は地元で当初より活動している「廃棄物対策豊島住民会議」の石井亨さんです。豊島は森に恵まれ、水の豊かな農業や石材業が盛んな土地で、昨今は直島(なおしま)と並んでアートの島としても有名です。

### ❁不法投棄産廃の無害化を求めて

不法投棄の現場は、島の西の端の約3000坪の土地。そこに、高いところでは廃棄物が18メートルも積み上げられ、総量は46万立方メートル、ダイオキシンや鉛、トリクロロエチレン等「想像を絶する汚染」と言われ、1990年に「豊島事件」として兵庫県警に摘発されました。

この摘発で、1975年を端緒とした産廃の持ち込みは止まりましたが、住民は“産廃の完全無害化撤去”と知事の謝罪を求め、「廃棄物対策豊島住民会議」を再結成して運動を継続、県庁前の立ちっぱなし運動や香川県の全市町村役場を訪れるメッセージウォーク、香川県民との座談会を130箇所、全国的な運動にするため、東京・銀座デモなどを行いました。

### ❁不法投棄現場その後

そして摘発から10年後の2000年、香川県との間に公害調停が成立しました。調停後は、廃棄物の熔融処理施設が直島に作られ2003年から熔融処理が開始。昨年3月に廃棄物はすべて直島に運び終わり、同年6月に熔融処理は終了しました。今は豊島の現場に廃棄物はありません。

しかし地下水はいまだに汚染されており、現場には、汚染水が海に流れ出ないように、浜に沿って遮水壁が350メートルも続いています。汚染水は現場につくられた高度排水処理施設で処理されていますが、処理が終わるにはまだ15～20年もかかると言われています。

### ❁見学を終えて

見学では、豊島の方々が、あきらめずに情熱を傾け続け活動されてきたことに自ずと頭が下がりました。またなぜ、これほど自然を踏みじめる事業を平気でしたのか、行政はなぜ手をこまねいたのか、自然を取り戻すためにこんなにも努力が必要なのかと、割り切れない、そして島の外の者に出来ることは何だろうか、自問自答するものとなりました。(大林)

2019瀬戸内国際芸術祭が開催されます。

テーマ <海の復権>

有史以来、日本列島のコブクロであった瀬戸内海。

この海を舞台に瀬波津からの近畿中央文化ができ、北前船の母港として列島全体が栄え、朝鮮通信使による大切な大陸文化の継続した蓄積の通路として。しかし、交流の海は近代以降、政治的には隔離され、分断され、工業開発や海砂利採取等による海のやせ細りなど地球環境上の衰退をも余儀なくされました。そして世界のグローバル化・効率化・均質化の流れが島の固有性を少しずつなくしていく中で、島々の人口は減少し、高齢化が進み、地域の活力を低下させてきた。海はぐくむ命と文化交流の場として3年ごとに開催され今年で4回目。16の島が会場です。